

進学経験と感想

鐘安勇

ここで自分の進学経験と感想を述べさせて頂きます。これから進学する皆さんのご参考になればいいと思います。

1 自分について

私は高校を卒業してから日本に来たわけではなく、中国の短大で2年間を勉強してから日本に来ました。もともと2020年4月に入学する予定でしたが、新型コロナの影響で2020年11月に日本に入学して、12月に亜細亜友之会外語学院にやっと入学できた。それから2021年6月にEJUの試験では日本語351点を取りました、次の7月のJLPTではN1が合格しました。最終的に12月に法政大学に合格しました。中国国内にいた時は成績がそんなによくありませんでしたが、それでも自分が入りたい大学に入れました。

2 日本語

日本に留学來た以上、日本語は当然とても重要です。JLPTの成績だけで日本語の能力を代表できるわけではありませんが、少なくとも高い点数を持っていると、書類審査の段階では落ちにくいでし。中国に居た頃は日本語を系統的に学んだわけでなく、独学しただけで、JTESTで後1点取れればD級に合格するレベルになりましたが、N1N2に合格した学生とやはり差が大きいです。日本に来てから必ず眞面目に授業を受けたいと決めました、何故かというと授業中は自分の独学よりも効率がよいからです。EJU日本語はJLPTと比べて単語の量がやや少なく、難しい文法問題も少ないですが、読解の問題が多いです。スピーディに読むことが求められる、授業中に先生が教えてくれた読解問題を解く考え方はとても有効的で、受験中にとっても役立ちました。日本語学校に4月に入学して翌々年3月に卒業する場合は、EJUは4回受けられますが、11月の試験は6月の試験より難しいです。大学の出願も年末に集中していますので、6月のEJUは11月のEJUよりも重要と考えます。従って、6月のEJUでよい成績を取れれば、年末の大学の入試やJLPT N1試験を受ける時は自分にとってとても有利です。試験問題をいっぱいやるよりは日本語の本を読むほうが良いでしょう。日本語の本を読むことで、日本語の単語の量が増えるし読むスピードも速くなります。しかも面接の時にも役に立てます（日本文学以外の専攻の学生は、必ず日本語の小説を読まなければいけないわけではなく、短い小説や漫画でもOKです）

3 英語、総合科目、数学

日本に来てから英語は勉強していません、英語の成績が必要でない学校もありますが、国公立大学や早稲田慶應 ICU、GMARCH 中の明治、立教、中央等有名な私立大学はトーフルの成績が必要です。英語成績の必要でない学部もありますが、一部の学部に限られています。EJU 総合科目と EJU 数学については時間がない場合は、どちらかの一つの科目を学んで受験すればよいです。もちろん国立大学を受験したい学生は両方を受験して、高い点数を取る必要があります。

4 出願

早く考えれば早いほどいいと言われていますが、日本に入国してからすぐ考える必要はありません（トップレベルの大学は別）。受験 1 か月前にやればよいです。自分が調べるのではなくて、まず先生と相談して下さい。受験料もかかるので、自分が受けりそうな学校を全て出願することは薦めません。学部によっては志願理由書や学習計画書の提出を求められる場合もありますので、こういった提出文書の中で学生の強い入学意思や十分な理由がないと合格する確率が低いです。例えば青山学院大学の LGBT ジェンダー平等の内容を学びたければ法学部に出願しなければいけませんが、ほかの学校は大体社会学部または総合政策学部にある、従って、自分が勉強したい専攻をまず決めて、それから大学の学部に出願すればよいです。

5 書類審査のみで選考する学校

慎重に考えすべきです。書類審査のみで選考する学校は大体高い成績が求められていますし、志願理由書にも志願理由や学習計画を書くだけではなく、これから学習する内容についての考え方や理解等も書かなければいけません。どうしてもうまく書けない場合は、書類審査のみで選考方式には出願しないほうがよいです。

6 面接・筆記試験

面接はまず亜細亜友之会外語学院で先生との面接練習をしっかりとやることです。面接練習の時に練習した問題は面接本番に必ず聞かれるとは限りませんが、一応練習になれます。面接の下書きについても同じです、絶対暗記すべきです、何故なら同じ内容でなくても、それに近い内容が聞かれたらある程度答えられます。面接の時の教授はみな優しかったので、緊張することはありません。教室に入る前に深呼吸して、質問が聞かれるときは話のスピードは控えめに、急いで話したら教授に自分の意思を伝えない場合もありますので、こういう意味で寧ろゆっくり、しっかり話したほうが良いです。その目的は教授にはっきり伝える為です。筆記試験は小論文 + 日本語の場合は多いです、小論文は非常に重要で、面接の時は必ず聞かれますので、自分は何を書いたのかを頭の中でよく理解したほうがよいです。簡単で

常識な質問に対しても面倒くさがらずに確実に答え、自分がわからない質問にはいい加減に答えてはいけません、自分のわかる範囲で答えてください。一部の学校では日本人と同じ試験を受けさせる場合もありますが、それはごく一部であって、心配する必要はありません。

以上は、私の進学の経験と感想です。総じて言えば、勉強の気持ちを緩めてはいけませんが、緊張しそうでもよくありません。日本にいるので、日本語も努力すればだれでも上達になるでしょう。もちろん高い目標を設定するのもよくありません、自分の実力で一步一步と確実に前に進んでいければよいです。

最後、亜細亜友之会外語学院の先生達に感謝しています。入学して以来学習上・生活上において私に絶大な支持を下さいました、また、日本学生支援機構発行の「文部科学省外国人留学生学習奨励費」の受領予約者に推薦して下さったことにも感謝しております。私は今後先生達の期待を裏切らないように倍以上の努力をしていきたいと思います。皆さんは日本語学校で愉快で充実な学習生活を送り、努力して自分の入りたい大学に入れるように祈ります。頑張ってください。

